

2015年「国際高齢者デー」にみなさまに訴えます

2015・10・01 国際高齢者デー International Day of Older Persons 記
堀内正範

10月1日は「国際高齢者デー」です。先行国が「高齢化」に関する1年間の成果を国際的に発信して、世界中の高齢者が安心して暮らせる国際社会にするためにモデル事例を示す日でもあります。1990年の国連総会で決議し、1999年の「国際高齢者年」に各国が確認して、新世紀へと引き継ぎました。

もはや、これ以上高齢者を無視、高齢社会活動を軽視させるわけにいかない。

わが国は1995年の「高齢社会対策基本法」の制定から20年、とくに新世紀15年の間の政治リーダー（森・小泉・安倍・一年一相期・再安倍内閣と国会議員）は、「支えられる高齢弱者」（介護・医療・認知症・年金の対象）についてのみ熱心で、その間、増えつづけてきた健常な「支える側の高齢者」の存在と役割に理解を示しませんでした。高齢者が「現役長生」意識を持って参加できる「高齢社会グランドデザイン」不在という失政15年が、高齢者に萎縮（デフレーション）と目標の欠如をもたらしています。

培った知識や技術は「引退余生」で寝かせずに地域で「現役長生」で活かそう。

安倍政権の「アベノミクス」は女性と若者の「成長力」を優先し、高齢者の「成熟力+円熟力」による社会活動を軽視しています。経験をつんだ品格のある大人の姿が見えないで「女・子どもがはしゃいでいる社会（品がないかな）」にむかっています。

これをオールジャパンの正常なラインにもどすには、生活感性の高い高齢者が、知識・技術・資産を活かして、地域での高齢期の暮らしを豊かにする「モノ・サービス・居場所・まちづくり」の創出にむかう「エイジノミクス」が求められています。

平和を守り九割中流の社会を築いた先人に対して「下流老人」はゆるせない。

戦後平和と繁栄を支えた功労者が、敬愛を受けて暮らすどころか、「下流老人」と呼ばれ、「老後破産」が流行語になり、同名の本がベストセラーになるという状況を現出させています。みんなが等しく豊かになるためにたゆまず努めてきた先人の営為を黙止するような格差の許容は、この国を自滅させることとなります。決してゆるせない。

各地各界の水玉模様のような小さな声をひとつにして、存在感を高めよう。

各地各界で、水玉模様のように、先駆して孤立がちに活動しているみなさんの力を結集し、存在感を高める「衆口一詞」の拠点（出城）のひとつとして、「丈風の会」は烽火をあげました。高齢化で先行するわが国の「加齢が価値である社会」の形成をめざして、国際的モデルとなるプロセスを探りながら、ともに歩もうではありませんか。

（朝日新聞社社友 「月刊丈風」編集人）

